

## 令和3年度 県民の環境活動支援事業

## ちば里山カレッジ「拡げよう・つなげよう里山活動」実施報告書(1)

## 第1回「地域に開かれた森づくり」

特定非営利活動法人ちば里山センター

題名	ちば里山カレッジ「拡げよう・つなげよう里山活動」 第1回「地域に開かれた森づくり」 オリエンテーション 「拡げよう・つなげよう里山活動」 ちば里山センター 副理事長 伊藤 道男 講義：「地域に開かれた森を目指して」 講師：松戸里やま応援団 代表 野口 功 スライド映写：囲いやまの森紹介画像 (移動・昼食) 実習：「森遊びとロープワーク」 講師：囲いやまの森 代表 壺岐 貞俊
日時	令和3年6月13日(日) 10:00~16:00
会場	松戸市市民会館201会議室(松戸市)、囲いやまの森(松戸市)
出席者	受講生17名(7市)・講師3名、スタッフ2名
内容	10:00~10:15 オリエンテーション：「拡げよう・つなげよう里山活動」 ちば里山センター 伊藤 道男 10:15~11:10 講義：「地域に開かれた森を目指して」 講師：松戸里やま応援団 代表 野口 功 11:10~11:30 スライド映写：囲いやまの森紹介画像  12:00~13:20 移動・昼食 13:20~16:00 実習：「森遊びとロープワーク」 講師：囲いやまの森 代表 壺岐 貞俊 A班：ハンモック B班：ロープワーク班(縄ハンゴ・ブランコ) C班：自然遊び実習(ネイチャゲーム・葉っぱ) A班：ハンモックは14:05~15:35(90分) B班とC班は14:50分に交代(45分を目標)
	里山カレッジ第1回は松戸市市民会館会議室で開講した。伊藤副理事長からのオリエンテーションでは、これまでの里山カレッジをふりかえり、今年度のテーマ「拡げよう・つなげよう里山活動」に結びついた点を強調した。続いて野口氏は「地域に開かれた森を目指してー松戸の里山ボランティア活動」と題して講義。松戸市の里やま活動がちば里山大賞を受賞するに至った経緯を説明しながら、里やま活動を地域に広げていくかを考えたいと始めた。

松戸市は市民活動を主体とする里やまボランティア入門講座を2003年以来継続して開講してきた。荒廃した樹林地を市民活動団体と協働し、里やまを保全・整備してきた。

松戸の里山ボランティア入門講座は①整備人材を育成する講座ではなく、現状を知ることにはばったという点、②樹林地の所有者が「森のまま残したい」という意向なので、ボランティアの活動場面が開けているという点、③講座はきっかけを作っただけ、あとは自分任せという点。

そのうえ、若い子育て世代が活動に積極的にかかわるようになってきた点も大きい。さらに地域に開かれた森をアピールするため、2012年から毎年オープンフォレストを開催している。9日間各森が工夫を凝らし、市民を招くイベントを行ってきた。

市民に向けたイベントを行っても里山への関心は広がらないということから、市民に開かれた活動をどう広げ、どう活かすか？地域につなげる、市民活動団体につなげる、次世代につなげる。その工夫をスタートしたところだ。

午後は新京成線常盤平駅まで移動し、徒歩で10分。囲いやまの森に到着し昼食を済ませると壱岐講師が挨拶、続いてアイスブレイク、森の紹介、樹林構成の学習、高木のコナラ、亜高木のシラカシなど4階建て構造を学習しながら森を探検した。

次にハンモックの製作、ブランコ、ナワバシゴ製作、自然遊びの3班に分かれゲームや作業を行った。初めてロープに触る受講生もいたが、全員がロープワークに挑戦した。自然遊びのカモフラージュゲームでは難易度が高く、正解率は必ずしも高くなかったが、楽しんでいる雰囲気は伝わってきた。

出来上がったハンモック、ブランコに試乗した受講生から「空が見えて気持ちが良い」と揃って同様の感想聞かれた。

添付資料（写真）



ちば里山センター伊藤副理事長のあいさつ



野口講師



あそびの森の画像スライド映写



吉岐講師「ようこそ囲いやまの森へ」



はじめましてゲーム



森探検で森の構造を知る



ハンモックに挑戦



ブランコ製作



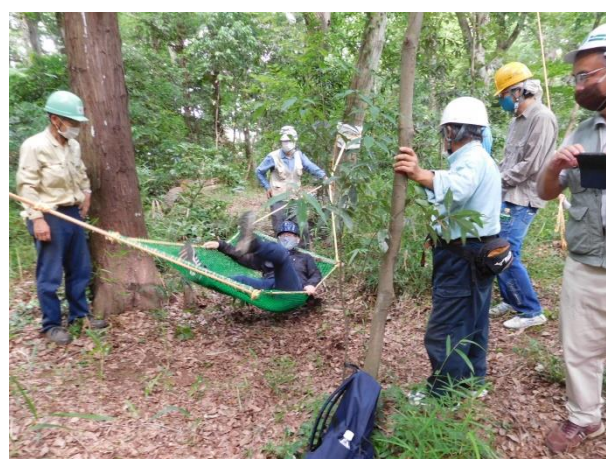
ロープワークにチャレンジ



カモフラージュゲーム



ブランコに試乗



ハンモックに試乗